

キラリ☆ぎの座

いまこの瞬間に私たちが目にしている夜空の星を、
ずっと昔の人たちも眺めていたに違いない。
この星とあの星とそれからあそこの星たちをつないで
結んで見てみると、獅子の形が浮いてくる。
遙か彼方の宇宙から届く星の輝く光。いったいどこに向かうんだろう。
先輩たちから後輩たちへ、過去から未来へ
手渡されている宜野座の宝。
「キラリ☆ぎの座」の第三幕のはじまりはじまりー。

宜野座村発見新聞
[キラリ☆ぎの座]

Winter 2017

No. 03

発行：一般社団法人 宜野座村観光協会
企画制作・印刷：(株)東洋企画印刷



キラリ☆ぎの座、待望の 第3号!

キラリ光るものと
出会いに
宜野座村へ
行こう!



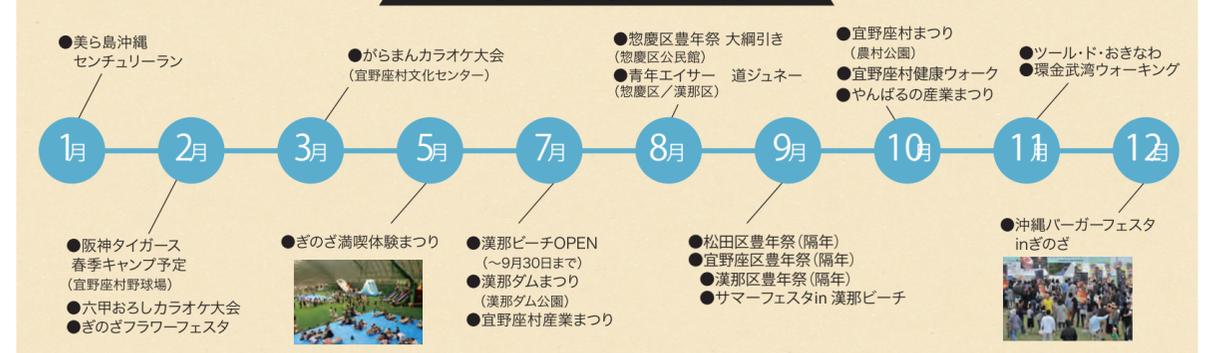
<http://ginozanavi.com/>

一般社団法人 宜野座村観光協会 ☎ 904-1301 沖縄県国頭郡宜野座村字松田78 ☎ 098-968-8787

わたた〜ぎのさんちゅ \ 六区のオススメの場所!

<p>★ 松田区 松田鍾乳洞</p> <p>「かつては生活に欠かせない水を汲みに行く大切な場所でした。4年前に整備をし、村めぐりのルートになりました。ガジュマルなど木々が発するマイナスイオンもたっぷりですよ」 森田智代さん</p> 	<p>★ 城原区 近隣公園</p> <p>「団地のすぐ隣にある公園です。広い芝生があるので大人にとっては朝夕のウォーキングの場所です。遊具も揃っているので、子どもを遊ばせるのにもいいですよ。区のイベントの会場としても活用されています」 崎濱秀正さん</p> 	<p>★ 惣慶区 前の浜</p> <p>「手つかずの広い砂浜なんです。村外の人にはあまり知られていないみたいですけど、何もなかったところが気に入っています。テラポッドのある場所は釣りのポイントで、ミジュンやイカを釣って楽しんでいます」 新里幸美さん</p> 
<p>★ 漢那区 漢那ビーチ</p> <p>「県内でもよく知られたビーチです。小さな頃からこのビーチで遊んで育ったのでとても思い出があるんです。日差しを避けて一休みできる木陰をつくってくれていたモクマオウの並木もいつか復元したいですね」 仲本仁さん</p> 	<p>★ 福山区 公民館周辺の花壇</p> <p>「区の皆さんはとにかく花が好きなんです。公民館の周囲や道路沿いに、いろんな草花が植えられています。季節の変わり目などで花壇が少しでも寂しくなると、サルビアやペゴニアなど植えてくれるんです」 漢那留美子さん</p> 	<p>★ 宜野座区 んんどうるち</p> <p>「見晴らしのいい高台にある御願所で、宜野座のはじまりに貢献した祖先が祀られているんです。売れたには小川が流れているし、子どもの頃は鳥や虫を捕まえたりしてました。何かあると手を合わせに来る場所でもあります」 新垣勝さん</p> 

宜野座村の年間イベント一覧



編集後記

生まれ育った土地を大事に考え、後世に繋げる活動もしっかりと行っている宜野座村にいい刺激をうけました。自分ももっと地元ラブで生きたいなと感じました。
真喜志雄也 (ディレクター/デザイン)

歳月を超えて、先輩から後輩へと地域の文化を受け継いでいる宜野座の取組みは本当に素晴らしいです。自分が生まれ育った土地にこれだけ誇りを持って正々堂々しています。
福田展也 (ライター)

今回、伝統芸能を訪ねて来ましたが「ぎのさんちゅ」の芸術者ぶりに驚きました。そこには地元に対する愛情を感じました。それは紙芝居を真剣に見ている子供達からも感じました。イイね宜野座。
大湾朝太郎 (カメラマン)



宜野座区の 八月あしび

旧暦8月15日に、2年に一度開催される「宜野座の八月あしび」。宜野座区に暮らす人が世代を超えて心待ちにしている伝統行事は昨年で120周年を迎えた。区の関係者や博物館の尽力もあり、文化庁から記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財に指定されているこの祭りの特徴は、地域に古くから伝わる村遊びと、琉球王朝の土族によって伝えられた宮廷芸能がバランスよく盛り込まれていること。

ムラの御嶽に豊年を感謝して、祈りを捧げる奉納芸能や、花形演目の「京太郎」(チヨンダラー)や蝶千鳥といった洗練された演目のほか、雑踊、棒術、獅子舞などの素朴で動きのある舞台で構成され、沖繩の八月あしびの典型として県内外の伝統芸能ファンの間で評判が高い。

24種類ほどの舞台は、小学生から昔の若者まで幅広い年齢の区民にそれぞれ役割と出演が与えられている。先輩の指導のもとで稽古を重ね、演じられる演目には、手の動きも、お化粧も昔ながらの特色が生かされている。ビデオやパソコンがない時代から、口づてに受け継がれてきた独特の所作や伝統的な衣装、素朴なものから艶やかなもの、勇壮なものまで、多彩な舞台が息を一つ暇もなく続けられる。

中でも際立っているのが「京太郎」。エイサーおどけた役割を担っているチヨンダラーとはまったく別物。扇の舞や鳥刺舞などいくつかの舞で構成されている。県内で主力所には残っており、宜野座区の京太郎は42年前に沖縄県指定無形民俗文化財に指定され、東京の国立劇場や、愛媛県の内子町など、県外にも招待され公演を行っている。馬舞者(ウメイサー)と太鼓打ちの唄とリズムに合わせ、華やかな衣装をまとった若者が舞い踊る姿は、雅な香りが漂う上品な舞台、ぜひ一度ご観覧を。

宜野座区事務所
住/宜野座村字宜野座427
098-968-8513

松田区の 十五夜アシビ



松田区の十五夜アシビは、旧8月15日前後でスクミ正日、ワカリアシビの3日にわたりアシビ庭のウカシリで行われていたが、現在は「松田祭り」と隔年毎に青年の仕事に配慮、15日前後の日曜日を利用して行われている。アシビの始まりは定かではないが、組踊日本「本部大主」「高那敵討」「買母三遷の巻」「黄金の羽釜里川之子」「糸納の按司」の台本があり、古いもので嘉慶23年(1818年)の写本であり、その時からアシビはあったと言われている。玉城朝薫が組踊りを創ってから100年を経た頃である。アシビは最初に神人、区長、有志、成人、青年会員によって拝所の御願しアシビナーまで旗頭を先頭に獅子ガナシ一招き入れる。その道ジユネーは部落内を練り歩き各アジマーで悪病払い、五穀豊穡を受けながら老人会が待ちかねているアシビナーに入る。スーマチ棒とガエーの乱舞、参加者全員でアシビナーの查炬に御願いよいよアシビが始まる。アシビ神の獅子ガナシは舞台の右側に鎮座し観衆と一緒にアシビを楽しむ。中でも会場を沸かせるのが獅子舞。躍動感に溢れる勇猛なものでありながら、ワクヤー(猿)との間で繰り広げるユウモラスな掛け合いが印象的だ。宜野座区と同じように松田区の村アシビも首里から下りてきた土族宮廷芸能ともあった民衆芸能が一つになったものと考えられる。獅子舞・舞方・長者・四季口説・道つね・三下・谷茶前・ヨド天川・本部大主の八演目は松田区独自の伝統芸能として正しく継承すべく、松田区伝統芸能保存会を設置し保存継承している。

大先輩二人が中心になって復活させた「道つね」は普通歌の継ぎ目に行われる立ち直が無く、子供が遊び戯れるさまを表現、気取りが無く、朗らかな雰囲気です。現在組み踊り「本部大主」「青年会 高那敵討」「成人会 買母三遷の巻」「壮年会」により復活されている。今後「糸納の按司」「黄金の羽釜里川之子」「スンドウ踊等」を一つ一つ復活させ文化能力を磨き高め、松田区の魅力的な特色をさらに引き立てる取組が求められるのではないかと考えている。

200年以上続く豊年祭で演じられる 獅子舞は松田区が誇る文化遺産



国の無形文化財にも指定されている
貴重な文化世代から世代へと
受け継がれる八月あしび

先輩から後輩へ

「松田の青年たちはとにかく素直で一所懸命。先輩たちは『わったーむん、あらんどー』と洗練された動きにダメ出しをするときもあるが、それは地元の伝統を引き継ぎたいという熱い気持ちの表れなので理解してほしい。上手さを求めるより、松田らしさを大切にしてほしい」

松田区伝統芸の保存会の会長を引き受けては3年という當眞嗣幸(つぎゆき)さん。



松田区事務所
住/宜野座村字松田1番地
098-968-8548

後輩から先輩へ

「子どもの頃、大人たちが棒術を演じるのを見て、かっこよさに憧れて、いつか自分たちも!と思っていたら、あっという間に教える立場になっているんですね。昔は学校を出てもそのまま地域に残る人が多かったんですが、今は外に出る若者が多くて、負担が増えてもいるんですが、受け継がれてきたものを、がんばって後輩に伝えていきたいです」

青年会長の山城英輔(えいすけ)さんは会長になって一年。日頃は消防士として活躍中。オススメは「京太郎」「高平万才」。締め獅子舞の直前に披露される演目で、威風堂々とした重厚さが憧れだという。



「ある演目のそれぞれが、先輩から後輩へと、長い年月をかけて受け継がれてきたんです。家族や親戚はもちろん、同じ地域に住むみんなが晴れの舞台を見守っているんですよ!」(会計の金城さん)



「昔と今では考え方も違うから、教えるのも習うのも大変。だけど、昔から受け継いできた貴重な文化だから、しっかり受け継いでほしい。」(区長の新垣さん)



「ミジタヤー」は惣慶だけに 伝えられてきた唯一無比のめでたい踊り



若者と地域との距離がとっても近い！ ほのぼのとした雰囲気の特徴の漢那エイサー



後継者たちの一言

「練習は2ヶ月前くらいからはじめてます。最初はDVDとかYoutubeで動画を見てみんなで教えてあって覚えて、時々先生には直接手直しをお願いしています。難しいのは呼吸を合わせることで、シンプルな動きが多いので、なおさら、動きがずれていると目立つんです。」
国立劇場が初舞台だったという東全志(まさし)さんは今年で27歳。他のメンバーも男女ともに20代。子どもの頃から踊りが好きだったという女性や、青年会活動に熱心な男性が伝統継承の担い手だ。



「みんな楽しそうにしてるし、練習もよくやっていますよ。僕らは若い人たちが誇りと自信を持てるように、そのまた次の世代に引き継いでいけるように、できる限りのサポートをしているだけです。」(区長の新里さん)



区長
仲本七さん

青年会長
仲吉武玄さん

後継者たちの一言

「いい感じで世代と世代のつながりができそうな気配があるので、これからも頑張っていきたいです。琉球舞踊の研究所から動きを習ったり、他の地域の振り付けを研究したりして、自分たちなりに漢那のエイサーに新しい要素を加えるようにしています。もちろん、残すべきものはしっかり残しながらですが、特に足の動きは変えられません」
青年会長の仲吉武玄(むげん)さんは、高校を卒業すると同時に県外に出て行く若者が増えていることから、漢那を離れても故郷を思い出してほしいと、高校生の参加に積極的だ。



「青年会が元気がならないと地域も元気がないから区をあげて、できることはバックアップしています。宜野座には惣慶とうちにしかエイサーがないから、がんばってほしい。」(区長の仲本さん)

惣慶区の ミジタヤー



惣慶の人たちによって踊り継がれてきた「ミジタヤー」。島の言葉で「めでたい」という意味のこの手踊りは、男女8人組で今も変わらず演じられている。いつ頃から踊られるようになったのかは定かではないが、歌詞に琉球王府を慕い讃える一節があることから、琉球王朝時代に始まったと考えられている。男女が寄り添ってしなやかに舞う。ゆったりと演じられるこの踊りの特徴は女性の手の動き、引いてから二度返す掌の動きは、おっとり、しっとり、優雅で気品にあふれている。宜野座村内だけでなく、県内にも同じようなものが見当たらない「ミジタヤー」は、惣慶だけに伝わる貴重な存在だ。戦争で一度は途絶えたものの、伝統行事を大切に思う集落の人たちの手で70年ほど前に復活され、大切に受け継がれてきた。

「親の伝えによると、首里からの使者をお迎える時の踊りだったみたい。昔衣装はクルチョー藍で何度も染められた黒に近い色だったと言っている人もいます。いとまのように紺だったという人もいます。裸足で踊ったという人もいます。足袋を履いていたという人もいます。要するに、よくわからないわけ。私たちがほんの先輩を訪ねていって直接手の動きや姿勢や足腰の動きを教してもらってまとめたんだよ。そう語るのには、師匠役の比嘉順子さんと惣慶喜久子さん。

「化粧はね、自分でやったことある人でないと、教えてもできないんだよ。特に目と眉を描くのが難しい。一人一人間隔も形も違うからね。全体的には三度塗りするわ。艶が出るのに時間がかかるから、出演時間に合わせて見極めが必要なのよ。ミジタヤーの化粧は30年続けていた新垣みどりさん。若い頃は実際に踊っていたそう。化粧も、着付けも入で一組。

惣慶のミジタヤーを継承してきたのは舞台上立つ8人だけではない。彼ら彼女らを支えるたくさんの人の手によって、何百年もの間、地域の誇りが支えられてきたのだ。

09806088555
住/宜野座村字惣慶1585
惣慶区事務所



漢那区の エイサー

青年会を通じて世代から世代へ受け継がれているエイサーは、間違いなく漢那区の宝物の一つ。見栄えのいいダイナミックな動きからくる派手さはないけれど、どちらかというとストイックで味わい深いのが漢那のエイサーの魅力だろう。全体的に動きが早く、蹴り上げるような小刻みな足さばりが印象に残る。一般的には大太鼓が担うリズムセクションを、銅鑼・三つが支えているのも大きな特徴。音が大きく響き渡るので、青年会のメンバーの中から特に音感がいい若者が担当に選ばれる。また、手踊りで棒の先に布を下げて「せい」と呼ばれる小道具やサンバを使ったり、隣の惣慶区とのエイサーオーラセーでは、手ぬぐいをかぶった女子が男子に混じって参加したりするのも漢那独特だ。

さて、この地域でエイサーが行われるようになったのは1970年のことなので、今年で47周年。先輩たちがあつまる市の石川まで何度も通って、パーランクーや大太鼓の打ち方や、スナップの踏み方、腕や体の動きを一所懸命に学んだという、「小さい頃からずっと憧れていました。大学生の頃、一回だけ参加したんですが、物覚えが悪いせいもあって、毎日夜遅くまで居残りをさせられて、ごめなりました。だからよけいに、本番が終わった時の達成感は半端なかったです。」そう語るのには区長の仲本七(しん)さん。以前は豊年祭の村芝居と一年おきに開催されていたエイサーだが、青年会メンバーと地元ファンからの要望で毎年開催されることになったという、「人が足りてなさそうだから、参加したほうがいいですよ」と高校生にも参加の呼びかけをおこなっている。道ジュネーでは依頼があればどこでも周り、保育所と幼稚園には、自分たちが見せたいからこそ進んで踊りにいく。そんなアットホームでほのぼのとした雰囲気は青年会と地域との距離の近さを物語っている。

漢那区事務所
住/宜野座村字漢那1840
09806082552



★ 宜野座村立博物館

山川さんからのメッセージ

「紙芝居は現在31作品。子どもだけでなく、大学生や研修で村にやってくる大人や村のおじい、おばあも喜んでくれます。みんながスマホを使っていて、情報が忙しく流れる時代だからこそ、「立ち止まった時間」の持つゆっったり感が受けるのだと思います」



県指定文化財「宜野座の京太郎」を題材にした『京太郎由来記』や、伝統芸能をわかりやすくした『組踊 本部大王』、そのほか昔の道具調べや平和学習に役立つ紙芝居など、随所にシマクトッパを用いて10~15分とコンパクトに楽しめるのが紙芝居の魅力だ。

「子どもたちに人気の『何が怖い』という沖縄の民話。貧しい家庭に育った少年が親孝行のために役者になろうと街に出かけて芸を磨き、おじいに化けたへびと渡り合う。はたしてその結末は？！子どもたちも目を輝かせて引き込まれる山川さんイチオシの紙芝居。

小さな村の深い過去から 大きな未来が描けそうな博物館

「博物館」という言葉から多くの人が連想してまうのは、「何だか難しそう」や「少し敷居が高い場所」。そんなイメージではないだろうか。小学校や中学校に通っていた頃に学校行事などで訪問し、大人になってからは夏休みの課題で子供たちを連れて行く方も少なくない。そんな博物館の魅力を改めて感じる事ができるのが、一昨年、開館二十周年を迎えた宜野座村立博物館だ。

この施設はユニークな活動や展示で知られており、地域に開かれた博物館として積極的な取り組みを行っている。例えば、博物館の常設展示では、約千八百年前の遺跡から出土した「ドングリ」や、沖縄では数が少なくなった木製の家型墓など県内でも貴重な資料を展示し、村内で蓄積された考古・民俗・自然・沖縄戦などの文化財調査の成果をテーマに企画展を催し、博物館の活動を通して宜野座村の魅力やフェスティックで広く公開している。

また、夏休みには親子を対象とした「しっくいシーサーづくり」や「草木染め体験」などの講座を開催し、地域で活躍する方の写真展やダンボールを使ったリサイクルアート展も催している。

このような活動の根底にあるのは、「地域の歩みを知り、昔の生活に触れることで過去と現在を結び、これからの未来を描く」や「地域の人々と博物館を結び、その活動に参加してもらおう」という「縦歴史」と「横（人）の結び」の理念だ。

しかし、遺跡から出土する何千年から何百年前の遺物や使ったことがない古い道具から当時の生活や歴史的背景を想像するには、ある程度の知識や体験が必要となるため、冒頭でも触れたように少し敷居が高い場所となる。

宜野座村立博物館では、専門的な知識を持たない一般の来館者にも文化財が持つ魅力を知ってもらうため、文化財調査の成果を基にした紙芝居を製作し、過去の人々の生活や歴史的背景をイメージする手助けをしている。

ちなみに、紙芝居の製作は博物館がオープンする以前より村教育委員会の職員や図書館司書によって取り組まれており、当初は村内に残る伝説や昔話などの民話を紙芝居化することで始まったが、その後、大正から昭和の昔の暮らしを題材とした「ゲンスケの一日」沖縄戦時の宜野座村を題材とした「戦争難民であふれた村」、名譽村民を題材にした「新里善助ものがたり」など、現在は幅広い分野の紙芝居が製作されている。

紙芝居を実演するのは、博物館に勤務する山川須真子さんと学芸員である田里一寿さん。事前の依頼があれば博物館を飛び出し、物語の由来の地を巡りながら紙芝居を実演することもあり、文化センターなどのホールでスクリーンに映写することもある。また、学校での平和学習・村が催す健康ウォーク・観光協会の星空観察などでも紙芝居を広く活用している。

これらの紙芝居は、ほとんどが宜野座村民や村出身者によって描かれた世界に一つだけの原画となっており、その使用には博物館スタッフの適切な管理が必要となるが、今後は村立図書館と連携し、紙芝居の原画をデータ化して複製することで貸し出しを可能にしていく予定である。



宜野座村立博物館

☎098-968-4378
住/宜野座村字宜野座232
営/9:00~16:30※12:00~13:00は昼休み
休/毎週月曜・祝日・年末年始(12/29~1/3)・慰霊の日
P/あり

